

児童発達支援・放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表日:令和6年2月29日

事業所名 愛心子どもの家

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内訳又は改善目標
環境 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	✓		活動内容と活動場所の1対1対応、個人のスペースの確保を行っている。	
	2 職員の配置数は適切である	✓		子どもの人数や状態に合わせて、丁寧に支援できる体制を確保している。	丁寧に支援できる体制を維持していきたい。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	✓		玄関にスロープを設置している。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	✓		職員会議にて全職員で話し合っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	✓		事業所評価のアンケートをとっている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	✓		ホームページで公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		✓		外部の方にコンサルテーションをお願いすることを検討したい。
適切な 支援の 提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	✓		内部研修・外部研修を行っている。	事業所全体として向上できるよう意識して努めていきたい。 外部研修に行った場合、伝達をしっかり行っていきたい。 より専門的な知識を身につけていきたい。 他事業所と繋がりを持っていきたい。 現場の支援に活かしていきたい。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	✓			子どものニーズを上手く引き出していきたい。 保護者様とも細かくご話していただきたい。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	✓			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	✓		日々の業務・職員会議で話している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	✓		色々な視点から考えている。 個別活動や集団活動の見直しを行っている。 子どもの様子や意見を踏まえて活動の設定を考えている。	個人に合わせた活動プログラムを検討していきたい。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	✓		平日・休日でも楽しめる活動を設定している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成している	✓			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	✓		その日の職員が全員揃ったら、打ち合わせを行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有している	✓		勤務の最後に職員が集まり反省会の機会を設け、子どもの様子の共有を行っている。	子どもの様子の共有からより良い支援に繋げていきたい。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	✓			
関係 機関 や 保護 者 との 連携	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	✓			
	19 ガイドラインの趣旨の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	✓			
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	✓		児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	✓		保護者の方、学校から下校時刻の連絡をもらい、把握している。 学校へのお迎えの時、できる限り先生と情報交換を行っている。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			非該当(今のところ)	
	23 学校前に利用している保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	✓		児童発達支援事業所さんに実際に支援現場を見てもらったり、情報ももらっている。	しっかりと引き継いでいき、関係を継続させていく。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	✓		相談支援事業所と連携し、情報共有している。	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	✓		必要に応じて発達障害者支援センターさんに相談している。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	✓		ご家族参加型のいちご祭り、みかん祭り、お餅つきなどの行事を通して他の児童との活動は実施できた。	学童クラブさんとの交流を検討していきたい。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	✓		子ども部会等に参加していきたい。	
保護 者 へ の 説明 責任 等	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	✓		保護者様と連絡帳でやりとりしている。 より詳しい話ができるよう努めていきたい。	
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	✓			これからの検討事項である。
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧に説明を行っている	✓			
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	✓		面談等で保護者からの話をきいている。	保護者様が気軽に相談できるような関係を作りたい。
	32 父兄の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	✓		ご家族参加型のいちご祭り、みかん祭り、お餅つきなどの行事は行うことができたが、保護者同士の連携を要する活動は開催できていない。	保護者同士の茶話会の開催を検討していきたい。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	✓		保護者様からのご意見を真摯に聴き、対応している。	
	34 定期的な会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	✓		月に1回事業所の「愛心だより」を配布している。	
	35 個人情報に十分注意している	✓			
非常 時 等 の 対応	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	✓		必要に応じて長体物や給カード、指差し、手話、ジェスチャー等を使い、配慮している。 特別な個別スケジュールを活用している。 保護者とは連絡帳で日々の様子のやりとりを行っている。	子どもからの異出コミュニケーションをより考えていきたい。 子どもの「発信」や「選択」を大切にしていきたい。
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	✓		餅つきなどの行事では、地域の方々に準備や当日のお手伝いなどご協力をいただいた。	左記、その他として散歩に出たり、買い物に行った中で地域の人やお店の人と挨拶を交わしたり、少し話したりすることはあるが、地域に開かれた運営までは至っていない。
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	✓			
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	✓			参加していない子どもがいないよう計画していきたい。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	✓		定期的に内部研修を行っている。	外部研修にも積極的に参加していきたい。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			非該当(今のところ)	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			非該当(今のところ)	
43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	✓				